

第 12 回公共施設再編計画策定検討委員会 議事要旨

日時：2018年5月31日（木）14時～15時30分

場所：町田市役所 10階 10-4 10-5

出席者：委員長 市川宏雄氏
副委員長 山重慎二氏
委員 神山和美氏
前島正光氏
岩崎俊男氏（欠席）
大塚信彰氏
小林祐士氏
通地康弘氏（欠席）
大倉博志氏
増山正子氏
長谷川隆氏

1. 事務局連絡事項

- ・ 傍聴は2名
- ・ 資料確認

2. 議事（1）計画案について事務局から説明

事務局

資料は、5月8日の委員会から更新したものを送付している。5月23日時点のもので、その後細かな訂正は行っている。前回の委員会からの大きな変更点は、本委員会、庁内委員会の構成、計画策定の主な経過等を追加した。また、ご意見募集の結果を各部と共有し修正している部分もある。細かな体裁は引き続き修正中である。

3. 議事（2）質疑

委員長

今日で案はとれて正式書になる。違うと思う点は挙げてほしい。対象は、本文と概要版になる。表紙等はこのまま地味な感じを出すのか。色はついたりするのか。

事務局

今の予定では、表紙は白で考えている。概要版の裏面は、色がついている。中身はフルカラーになる。表紙はタイトルにもあるように、皆でこれから白いキャンパスに絵を描いていくというイメージ。

委員

概要版の4ページの財政のところ、説得力がない図だと思う。2015～2055年までを見ると、あまり変わらなくて、2055年以降になると段々減っていくグラフになっている。そんなに心配しなくていいという気分になる。その認識でいいのか。特に扶助費の部分が増えているとしているが、それほど増える訳ではない。町田市はこのままだ大丈夫なのではと、理解されるのではないかと懸念されるのは税金の減少ということがあるが、それには全く明示されていない。市民の方から見ると、町田市は何とかなる、公共施設もそんなに心配しなくてもよいと読まれてしまうことになっていいのか。そうでなければ、もう少し危機感が伝わるような絵や情報を出してもらいたい。

委員

公共施設の維持管理費が入っていないのではないかと。入っているのは社会保障費だけか。

事務局

扶助費の増大は読み取れない。税金に関してはそのようなグラフもあると思う。検討させていただきたい。

委員

市民に伝わるような情報提供にしてほしい。

委員長

この中では、税金が減っていくということが載っていない。税金の方が重要ではないか。

事務局

「町田市5ヵ年計画17-21」の中にはグラフがあるが、将来予測の中で、税金のところをどこまで説得力を持って出せるのか。少し検討させていただきたい。

委員

少なくとも現時点での見込みでよいので、出してもらいたい。

委員長

税金について書いてない。将来人口見込みで出せると思う。何らかの切迫感がないと。検討をお願いしたい。

委員

市長部局以外の教育部局の施設は学校、図書館の2つか。

事務局

学校教育部と生涯学習部所管の施設なので、他には生涯学習センター、文学館などがある。

委員

図書館が気になってみていたが、教育委員会が決定すると書いてある。他には書いていない。生涯学習センターとか市長部局以外のところはどこが決定するのか。明記すべきだと思う。例えば図書館のところを見ると、市民アンケート等をふまえ、最終案は教育委員会で決定すると書いてある。では、学校の9年間の取り組みはどこが決定するのか。

事務局

再編計画のこの時点では教育委員会であるということになるが、教育委員会の所管している施設の設置条例では、教育委員会で決定し、議会で条例の改正を決定することになる。

委員

ここに書かなくても、他にわかるようになっているものはあるのか。図書館については、請願があったから、教育委員会で決定ということをやわざわざ書いているのか。同じ教育委員会部局なのに書いていないことに今気がついた。教育部局は、市民の意見が言える場なのに、市民の意見が通りにくくなっているの、しっかり明記してほしい。

事務局

学校などは教育委員会のなかで審議会などを設置して行うが、基本的なことなので書いていない。

委員長

仕組みは決まっている訳なので、ここだけ書くのはむしろおかしいのではないか。図書館に書くことの方が違和感がある。請願があって、若干入れてくれということであればわかる。

事務局

この文案については、生涯学習部に確認して検討する。

委員

町田が変わってきているのは市民としてわかっている。従来の公民館的なところがなくなってきて、イベント実施を市民にやってくれということで、企画能力のない職員が多くなっているのではないかと。本来の生涯学習を支えて保障するということになる必要がある。それが教育委員会だということがないと一般の市民にはわかりづらい。

委員長

他の自治体では、大学のカリキュラムがすごいので、生涯学習講座を大学等にお願いしているケースが多くなっており、自治体単独で行っているのは少なくなっている。町田がどうなっていくのかはわからない。すべて行政がやるのではなくて、いろいろな組み合わせがあると思う。

委員

概要版の3ページに位置付けがあるが、インフラ長寿命化基本計画はどこにも説明がなく何かわからない。

事務局

概要版では説明は割愛しているが、国から、インフラの老朽化対策を財政的にも裏付けのある計画を立てなさいという要請が降りてきた。その中で、町田市も行動計画を策定している。その全体的な流れのことを表記した。

委員

建物を80年にするということが書かれているのか。

事務局

80年にするということは書かれていない。

委員長

説明は本文の9ページのところにある。ここは中身というより、国もそういう方針だということ。

委員

財政が厳しい状況が感じられないということがあったが、家計に置き換えるとずっしり感じられる。そんな補助資料を作ってもらいたいと思う。みんなで言いながら、難しい資料ではなく、漫画を使うような補助説明の資料があると市民にとってわかりやすい。

事務局

これから説明をしていく中で、財政の面で家庭になぞらえるなど補助的なものを工夫していきたい。

委員長

それはしていく必要がある。説明段階は噛み砕いて。概要版だけでもボリュームがある。

委員

比較的まとまっているとは思いますが、構成の仕方が少し混在している。2番の再編の必要性の中で、マクロ的に書いている。全体的なマクロに対して、ミクロを言う。まとめの仕方は良いが、区切りを初めて見る人には、論点がわかりにくい。本来5ページのことを言いたい。中身どうこうより構成の問題。

委員

財政の問題だけでなく、社会変化の中で再編の必要性がある。今の資料は綺麗にまとまりすぎている。これから市民に考えてもらう段階では、もう少し具体的に踏み込んだデータが必要。補助資料が必要。

委員長

説明会には違うバージョンも必要。

委員

概要版にLCCやPFIという言葉が出てくるが、わかりづらいのではないか。ライフサイクルコスト等注釈があるとよい。

事務局

計画書の中では注釈を入れている。

委員長

2つだったら、概要版にも注を入れたらよい。

事務局

LCCをやめてライフサイクルコストとカタカナ表記に統一するのはどうか。

委員長

カタカナの方がまずい。概要版12ページには詳しく書いてある。

委員

基本計画の表現がそうになっているので、それは変えないでよい。後ろ(12ページ)には書いてあるので。

委員長

今日の委員会が終わった後、修正が間に合うのはいつまでか。

事務局

6月4日に市長に計画書を渡すので、どうしてもということは明日までにはお願いしたい。

委員

決定後、推進体制が重要となってくるが、176ページの推進体制がよくわからない。

事務局

176ページの推進体制だが、2段落目で公共施設マネジメント委員会を開催することを記載している。図表の6.1推進体系図は、市と市民の関係を図示したもの。説明会を行っても、ご意見募集をしてもなかなか集まらない現状なので、市民の方に興味・関心を持ってもらう。まず市の方で共通理解を図っていく。それを元に、再編の検討を市民の皆さんと対話を図っていく図になっている。

委員

これにプロジェクトチームはどう関わっていくのか。

事務局

実際にまだ委員会は立ち上がっていない。プロジェクトでやるやらないも、これからなので、どういう形が望ましいのか、検討していく。

委員長

今の質問は、プロジェクトチームは図表6-1のどこにあたるのか、という質問だと思う。

事務局

基本的に全体にかかわっていきたい。プロジェクトチームは全体をマネジメントする部長・課長で構成される委員会の下で組織する。具体的なところになれば、それに関連する部署が集まってやる。そのときどきで議論のやり方はそれぞれ決定していくため、はっきりとは書いていない。

委員

財政の状況が甘い予測となっている。4ページの下の方では、2010年から2015年の5年間で高齢者が1万8千人増えて、扶助費が100億円増えている。これから2020年までの5年間に高齢者が9千人増えて、扶助費が4億円しか増えないということがあるのか。2040年には、3万6千人増えるのに、扶助費は4億円減っている。75歳以上の後期高齢者が増える中で、こんなことが有り得るのか。町田市の財政状況はもっと厳しくなるのではないか。そのことをもっと市民と共有して話し合ったほうがいい。

事務局

地方財政の考え方もわかりにくい。扶助費の生活保護費、国保、介護保険、高齢者医療等が特別会計になっている。一般会計の穴埋め的に、操出金という形で増えてくる。それをどのように表現したらいいか。今は、国保、高齢者医療、介護保険の操出金が増えている。生活保護費も増えている。

委員

高齢者が増えると生活保護費も増える。実態を表しているか懸念がある。市民にも伝えてほしい。

委員

厳しくする数字はあるのか。表現の仕方で異なるのであれば、替えたほうがいい。次のページにつながる。困るということを表したほうがいい。今から替えられるのか。

事務局

介護保険事業会計などのデータを引用するなどをしたい。検討させてほしい。

委員

基本計画があって、その下の実行計画としてあるのだが、基本計画を見たら40年間計画の削減目標が出ている。これには出ていない。基本計画の数値目標を謳われていないので、

整合性がないのではないか。

事務局

基本計画の1,427億円は必要額の推計と現状の額のギャップをお伝えしているだけであり、再編計画も全く同じ考え方。38年間で合計3,384億円と必要となる。考え方を変えたという認識はない。

4. 議事(3) 提言書について

委員長

続いて提言書について。前回頂いた修正を行った。全部で1から5。1. 市民と行政の情報共有。2. 将来を見据えた再編。3. 官民連携、市民対話による市民主体の解決。4. 着実にマネジメントが実現する体制を実現すること。5. 社会状況の変化に対応するための定期的な見直し。

これが来週月曜日に市長に提言するもの。

委員

この効力がどれだけあるのか。

委員長

市民がよく市長の行動を見張っていく。市長が受け取れば、市長が、委員会が出した結論に同意をしたということになる。ここから先は、市長と市議会がどうするかになる。

委員

これを全部守ってもらえれば、市民と一緒にできるというのが入っているので、いいと思う。

委員

これを受け取ると、従来の体制・考え方を変えなくてはいけない。これは変わるきっかけ。そういう形にみんなを変えていく。市民が、企画政策課に話そうとしても無理。市民部等そういうものを抱き込まなくてはならない。これを実行するのは市長の役割。実行性はわかりやすく書いてあるが、ハードルが高い。監視するには市民も変わっていかないと大変である。提言としてはすごくいいと思う。

委員

1点だけ、言葉遣いについて。官民連携というのと、官僚という意味が強い。最近は公民連携といった方がいいのではないかな。

事務局

言葉として定義が定まっていない状況がある。官と民があって、それぞれが公(おおやけ)を担うということがある。ただし公は役所だけを限定する言葉ではなく、一部の民間も含むので、官民連携の方が伝えたいニュアンスに近いかなという感覚がある。

委員

国立大学の時は教官といわれていたが、今は教員。その辺の意識もあって、言葉遣いが気になった。

委員長

言葉はわかればいいが、これはかなり国に詳しい人でないとわからない。あと社会状況の変化というが、よく経済社会状況の変化とセットでいう。

委員

社会の中に経済も含まれるという使い方。

委員

提言としては、短い期間によくまとめた。

委員

項目3では、若年層と書いているが、若い方が興味を持っていないという背景があつての書き方になっていると思うが、感覚的には、幅広い年齢層といった方がいいのではないかな。ある程度若者に焦点を当てた方がいいのかな。

委員長

これでいうと中年、老年層は対象ではない。

委員

アンケートを見ても、若い人の意見がなかった。

委員

意識を持ってもらいたいという前提であえてこういう表現なのか。どちらがいいのかな。

委員

今回の提言で漏れているのは、20歳から60歳までの勤労層が公共施設を使っていないということ。お金だけ納めて使っていない。今後土日も含めて、そういう層が使っていけるようになるかが成否を担う。より地域の専門性が生かされてくる。

委員長

この市民は、納税者であって、町田市民ではない勤労者は入っていない。勤労者だと、公共施設に来ている市民でない人はたくさんいる。これでいいと思う。

委員

公共施設を利用する対象は、住民でなくても、企業誘致をすれば、その企業の人間も対象になる。今すぐでなくても、今後はそういうところも取り入れていく必要がある。

委員

担当の方はどのような形で、これを市長に渡すのか。また、渡したあと何かあるのか。

事務局

提言書は委員会から提出してもらうもの。これはきちんと残るようにする。計画書の中に提言書を入れる。

委員長

委員会全体の総意として渡す。

委員

市民参加のまちづくりをずっとやってきたが、市民は物言う技術を持っていない。市民が物を言える仕組みづくりをするのが、市民協働推進課の仕事。行政からより良い市民を作るべき。そういう文言が入ってくるといい。

委員

市長には中身を説明する場はあるのか。

委員長

機会はたくさんあるので大丈夫。

5. 議事（4）今後の進め方について

事務局

6月4日は、委員長に代表して提出してもらおう。7月には、計画書を製本して販売する。概要版は無料配布。8月1日に情報誌ぷらっとの第2刊を発行し、9月30日にシンポジウムを生涯学習センターで開く予定。10月以降は、公共施設に出向いて、再編の意義等地域の人に周知。意見を頂く機会も設けていく。

委員

ホームページでの計画の公表はいつごろになるか。

事務局

記者発表に合わせてホームページにも掲載予定。

委員

9月30日のシンポジウムについては、委員には連絡があるのか。

事務局

お知らせする予定。

委員

9月30日のシンポジウムの開催等の地域に伝える人、10月以降、地域に出向く窓口は、具体的にはどこが動くのか。

事務局

公共施設再編担当が進めていく予定。もし公共施設マネジメント委員会のプロジェクトが立ち上がれば、いろんなメンバーで動く。

委員

この間の説明会のように企画政策課でやると市民が集まらない。市民との接触がないから。市民部を前面に出して動けるかが、うまくいくかにつながる。人集めは市民部に動いてもらいたい。あとは組織横断的な動きができるかによる。

6. 議事（5）振り返り

委員長

最後に、委員会に参加して感じたこと、伝えておきたいことなど一言ずつ、順番に発言をお願いしたい。

- ・ この委員会でのいろいろな議論を行ったが、自分がどれだけ貢献できたか疑問である。公共施設再編に向けての、議論の進め方やレベル感はなかなか難しかった。一方で、公共施設の再編については、市民参加を促進する上で重要な契機となる。この再編計画を基に、よりよい形の実現に向けて、これまで参加してこなかった市民の方にも参加してもらいたい。
- ・ この委員会で勉強になった。通常の説明会では人を集めるのが難しい。市民に、自分たちの問題だと意識を持って参加してもらえる仕組みが必要である。ある程度先を考えながら、この課題に取り組んで欲しい。できれば、行政側の考え方をもう少し明確に話された方がよい。どういうまちづくりにしていくのかももう少し話された方がよい。委員会の足跡も、どういう議論がされたのかなど別冊があると、提言書を出すときに説明しやすくなる。
- ・ 玉川学園の元 IBM 跡のマンション建設の大反対の問題が参考としてある。マンション専用のバスがあるが、それにはマンション住民しか乗れていない。一方で玉川学園には、玉ちゃんバスがある。マンションのバスにも100円払って乗ればいいが、行政がそこに出て行ってやることではない。地域の方々が、過去のトラブルを一旦清算しないと次のステップにいけない。公共施設再編においても、市民の知恵をどう使うか。既存の公共施設で全てを受けとめていくのではなく、使われなくなった民間施設を活用する等、地域によって大きく異なる。地域によってアイデアを引き出せる手法がとれるとよい。いい勉強になった。
- ・ 非常に勉強になった。自分は海外駐在、ベンチャーキャピタルにもいた。市民の参加がなければ成功しない。どうしたら市民の参加が得られるか。市民の参加となったときに、具体的にイメージがわからない。シンポジウムに出ても、自分たちのエゴばかりで市全体を考える意見が出てこない。イメージを市から渡して、市民の意見を出させながら、市民を巻き込むといった仕組みが必要である。海外ではある。
- ・ 計画策定の経過の知らせ方にも問題があるかもしれないが、関心がない、あきらめた市民が多い。委員の方が他の市民にどれだけ浸透させてくれているのか。学習会もやっている。町田未来の会というのをやっている。意見書を出しているのは、ほとんどその人たち。周知していくのが重要。市議会は報告しかない。市議の人にも検討してもらいたい。生涯学習など市民が育っていくような事業もやって欲しい。

- ・ 実行するのが大変だ。計画を作ったのなら、実現しなくては意味がない。みなさんに頑張ってもらいたい。
- ・ 周りには20代、30代が多い。公共施設の問題についてみんな考える余裕がない。まずは自分の子ども達にも広げていきたい。
- ・ 市民の方も真剣に考えている、これからの町田は大丈夫。財政は厳しい状況になる。首都直下地震の備えも考えると、厳しい状況が到来する。過大な負担を若い人が負わないようにするにはいけない。効率的・使い勝手のよい公共施設を再編していくのが重要。
- ・ 長い間ありがとうございました。委員全員に積極的に参加いただいて貴重な意見を頂いた。

事務局

述べ3年間ご参画いただきありがとうございます。真摯に向き合いご議論をいただいた結果、とても素晴らしい「計画案」が出来上がった。市民や事業者の皆様と「対話」を行いながら、「公共施設・公共空間のより良いかたち」の実現を目指し、計画を着実に実施していく。今後とも町田市政へのご理解、ご協力のほどよろしくお願いしたい。

(閉会)